

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ通信

令和 7 年 11 月 24 日

——薬剤師不足に真正面から挑む未来設計——

奥能登公立 4 病院機能強化検討会

11 月 20 日石川県庁で「奥能登公立 4 病院機能強化検討会」が開催され本会からは中森会長が出席しました。この会議は奥能登公立 4 病院の医療提供体制の復旧状況を確認し、必要な支援策を検討・実施し、広域避難者の帰還に伴う医療需要の増加に備えるとともに、医療を取り巻く状況の変化を踏まえ、医療提供体制の機能強化策を検討することを目的とするものです。

会議で中森会長は新病院の薬局の DX 化を会議で訴えました。これは事前に金沢大学病院崔薬剤部長(石川県薬剤師会副会長)に伝え専門的妥当性の確認を得ています。

1. 背景

奥能登では人口減少と医療従事者不足が同時に進行しており、薬剤師不足は今後さらに深刻化することが予想されます。このままでは、人手に依存する従来型の医療提供体制を維持することが困難になります。

しかし一方で、奥能登は DX の効果が最も発揮される地域であり、地域医療の持続可能性を高めるためには、デジタル技術を前提とした医療提供体制への転換が不可欠であると考えます。

2. 中森会長が訴えた DX(AI エージェント)の基本方針

薬剤師は AI 技術を活用する方向で進めます、そのうえで AI ができる領域(業務支援・情報処理・予測など)AI ができない領域(臨床判断・コミュニケーション・共感など)を適切に切り分けることが重要です。

AI は薬剤師を代替するものではなく、業務を拡張し、質を高め、継続性を強化するものと位置付けます。

3. 奥能登 DX 薬局モデル「3つの柱」

① テレファーマシー(遠隔薬剤師)

新病院を中心とする薬剤師ハブ機能を整備し、サテライト病院を含め遠隔での調剤監査・服薬指導等を行います。

→ 薬剤師が不在の時間帯や災害時にも医療の継続性を担保します。

② AI 臨床薬剤師(AI エージェント)を主体として機能させる薬局
AI が自律的に腎機能を踏まえた用量チェック
重複投薬等のリスク検知し指導文書作成の自動化
TDM 業務の支援(抗菌薬など)
→ 薬剤師の判断を支援し、少人数でも高い安全性を確保します。

③ 自動キャビネット・ロボット調剤
錯誤防止
麻薬等の厳格管理
在庫管理の自動化
→ 調剤の省力化と夜間・災害時対応力を高めます。

4. 海外の先進事例

過疎地域の医療危機に対し、海外ではすでに
○遠隔診療
○AI 支援
○バーチャル病棟
これらが標準化しています。特に人手不足地域ほど導入が早く、効果が大きいとされています。
→ 奥能登は、日本版モデルの実証に最も適した地域です。

5. 石川県薬剤師会としての提案

奥能登に、テレファーマシー × AI 臨床薬剤師 × 自動キャビネット
を一体化した DX 薬局を構築し、新病院とサテライト病院の医療安全と継続性を確保します。

6. 結語

過疎は不利ではありません。むしろ、DX の効果を最も実感できる環境です。奥能登は“限界事例”ではなく、“先行事例”です。奥能登から、日本の未来の地域医療モデルを創り上げていくことができると確信しています。

石川県薬剤師会は、この未来型医療体制の実現に全力で協力してまいります。